

農家の笑顔が豊かな食卓を支える。

ひとはみんなのために、みんなはひとりのために ——
これは協同組合のモットー。作物が食卓に届けられるまでには、多くの人の協力がある。

冬の強い冷え込みや急速な春の訪れ。農業は自然相手の仕事であり、病気や害虫、天候不順による生育の遅れなど、農家の悩みは尽きない。
JAにはTACと呼ばれる職員がいる。TACの役割は農家の元を定期的に巡回し、栽培についての的確な情報を伝え、農家の不安を解消すること。
科学技術は日進月歩。農業の生産技術も同じように進歩していく。
TACはタブレット端末を駆使しながら、ビニールハウス内の温度や湿度などのデータを活用し、改善点を提案。必要な資材もその場で紹介する。
農家の笑顔を見届け、次の巡回先に向かった。

TACの正式名称は「チーム・フォー・アグリカルチュラル・コーディネーション」。
「JAと関係団体がチームを組み、地域農業をコーディネートする」という意味を持つ。
TACの背後では金融や共済担当など、多くのJA職員が連携し、農家を総合的にサポートしている。
地域の農家とともに、農業の未来を創ること。農家が安心して作物を生産し、食卓に「おいしい」笑顔の輪が広がること。
それが私たちの願い。



知って 納得JA

Q JAがさまざまな事業を行うのはなぜ？

A 農家が安心して農業に専念できるよう、暮らしの基盤を支えるためです。

日本の農業の大部分は、家族経営で支えられています。農家は、所有する土地や農機具、家族の労働力などを使って農作物を作り、販売して収入を得ます。これらの収入の一部を家計に回して生活必需品を購入するほか、貯蓄したり共済に加入したりしています。

JAは、組合員である農家が安心して農業に専念し、農業所得を上げて豊かな暮らしを実現できるよう、さまざまな事業を通じて応援しています。これらの事業は組合員以外も利用ができ、地域住民の暮らしを支えています。

このように、JAは組合員や地域住民を総合的に支えることから「総合農協」とも呼ばれます。家族経営を大切にする日本らしい協同組合組織といえます。



耕そう、大地と地域のみらい。

 JAグループ群馬